

四季彩便り

2008・初夏

発行人
サニー光が丘
漢方四季彩堂
酒見裕子
(092)927-2693

梅雨空

雨の恵みを受けて、木々の緑がいつそう深く豊かになり、生き物たちも繁殖のピークを迎えています。

我が家のベランダでも雀が子育ての真っ最中です。

今年は関東地方のほうが先に梅雨入りするという、例年とは少し違った気象環境ですね。

「梅雨」で思い出すのは、一昨年この時季、重度の認知症だった父が入院先の病院のリハビリで的一幕。

「きようはどんな空ですか？」との質問に答えて、「梅雨空ー」。

認知症状改善の兆しが見え始めたこと実感できたことでした。

「つゆぞら」この響きに日本の風情を感じます。

そして梅雨が明ければ本格的な夏の到来。

今年七、八、九月の三ヶ月は暑さが厳しいとの予測が出されました。

こまめな水分補給で日射病や熱中症、脱水を予防しましょう。



折々の薬草

ハンゲ



カラスビシヤク（生薬名 はんげ 半夏）

サトイモ科の多年草でぶつえんぼう 仏炎苞（肉穂状の花）を柄杓に見立て、人が使うには小さすぎるところからカラスビシヤクと呼ばれています。

“夏がくれば思い出す...”と歌われたミズバショウや子供の日の菖蒲湯に用いるシヨウブ、悪臭を放つゼンソウなどはみな同じサトイモ科の仲間です。

生薬名の半夏は、はんげしょう 雑節の半夏生（夏至から十一日目）の頃に生えるのでこの名が付けられたとか。

薬用には塊茎（イモの部分）を用いますが、有毒なので間違って食べると中毒を起します。

ひどい場合は呼吸困難に陥り危険なので、サトイモと間違っって食べないように注意が必要です。

ところがこの半夏をシヨウガと一緒に煮るとその毒性が和らぐから不思議です。

吐き気を鎮め、胃の働きを良くする作用があり、数多くの漢方処方に配合されています。

胸のムカムカやつかえに用いる半夏はんげ 厚朴湯、めまいに用いる半夏白朮天麻湯、風邪がなかなか治らない時に用いる小柴胡湯、透明の鼻水が止まらない時に用いる小青龙湯など。

この時季にかかりやすい吐き気を伴う風邪や下痢、食欲不振などの症状には勝湿顆粒（藿香正気散）がよく効きます。

昔は畑の雑草として嫌われものだったカラスビシヤクですが、塊茎が薬用になることから、草刈りのついでに掘り取って集荷人に売れば現金収入になったので「ヘソクリ」という呼び名もあつたのだそうです。

カラスビシヤク



高尾山の登山口でケーブルカーを降りたところに咲いていました。



医薬品



麦味参顆粒で全身のだるさ・日射病・熱中症・脱水などから体を守り、夏を元気に過ごしましょう！